

教育研究業績書

2023年10月23日

所属：看護学科

資格：助教（臨床）

氏名：間城 絵里奈

研究分野	研究内容のキーワード
基礎看護学，がん看護	がんサバイバー，がん診療，地域連携
学位	最終学歴
修士（看護学）	大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻博士前期課程

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1. 成人看護学（急性期）実習	2020年11月2021年3月	武庫川女子大学3回生を対象とした成人看護学（急性期）実習で非常勤助手として臨地における学生指導を行った。本来は病棟実習の予定であったがコロナのために学内演習に変更となったため、学生に対して実際の病棟実習を想定しながら、学習のサポートを行った。事例患者であっても、学生一人ひとりが患者像をもち、看護を行うことができるように取り組んだ。さらに、臨床実習指導者と密に連携を図りながら、学生の個性性を重視した教育指導を展開することを心がけ、実施した。
2. 成人看護学（急性期）実習	2018年5月2022年9月	学部生3・4回生を対象とした成人看護学（急性期）実習の病棟実習・手術看護実習において、TAとして臨地における学生指導を行った。学生が主体的に考え、看護を提供することができるようにサポートを行った。
3. 特別研究における研究指導	2018年5月2022年9月	学部生4回生の特別研究において、TAとして学生への研究指導を行った。学生の興味・関心を大事にしながら、研究の大切さや面白さが伝わるように指導を行った。さらに、学生担当の教授と密に連携を図りながら、学生が主体的に看護について疑問を持ち、研究に取り組むことを育成するという意識をもちながら指導を行った。
4. 成人看護学（急性期）実習前演習	2018年5月2022年7月	学部生3・4回生を対象に、成人看護学実習の履修を希望する者に、実習前の学内演習において、TAとして学生指導を行った。看護過程における学生指導では、患者を包括的にアセスメントする視点を学生と共に考えること、患者の個性性に配慮した看護実践の計画の立て方を重視して取り組んだ。また、TAとして学生に講義を行った。術後の婦人科がん患者の退院指導について、患者の生活を基盤とした関り方について講義を行った。
2 作成した教科書、教材		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		
1. 患者会ボランティア	2020年8月2022年3月	口腔・咽頭がん患者会、1・3・5の会患者会にて、ボランティア活動を行った。定例会の参加、患者会のHP作成などに参加した。

職務上の実績に関する事項

事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1. 保健師資格	2011年3月29日	
2. 看護師資格	2011年3月28日	
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

研究業績等に関する事項

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1. 外来がん化学療法看護ガイドライン2014年版①抗がん剤の血管外漏出およびデバイス合併症の予防・早期発見・対処	共	2014年2月	日本がん看護学会編（ワーキンググループメンバー）	第3章Ⅱ推奨と解説4. EVの早期発見に必要なアセスメントとセルフケアの促進CQ8, CQ10, 5. 抗がん剤終了時のEV予防のための処置CQ11を担当した。
2 学位論文				
1. 手術療法後の婦人科がんサバイバーの支援ニーズの実態	共	2020年3月	大阪大学大学院	手術療法を受けた婦人科がんサバイバーの退院1か月後の支援ニーズと、その関連要因を明らかにし、婦人科がんサバイバーへの看護支援のための示唆を得ることを目的とした。無記名自記式質問紙調査による量的記述的研究デザインを用いた。対象者は53名、子宮がん64.2%であった。術後退院1か月後は、婦人科がんの診断を受けたことに伴う支援ニーズが高く、手術療法に伴う身体症状に関する支援ニーズには個別性が表れていた。婦人科がんそのものによる影響を考慮しつつ、術式や症状、就業状況をふまえ、多角的に支援ニーズの内容を検討することの重要性が示唆された。
3 学術論文				
1. 術後早期の婦人科がんサバイバーの支援ニーズの実態	共	2023年3月31日	大阪大学看護学雑誌, 29(1):1-8	術後早期の婦人科がんサバイバーの支援ニーズの実態を明らかにすることを目的とした。婦人科がんと診断されて手術療法を受けた70名に情報と医療・身体機能・心理・社会・人生観の5領域の支援ニーズについて尋ねる自記式質問紙を配布し、退院1か月後に郵送で回収した。55名（78.6%）より回答を得た。術後早期から婦人科がんサバイバーが自分らしい生活を送ることができるように、婦人科がんそのものの影響を考慮しつつ、多角的に支援ニーズの内容を検討することの重要性が示された。
2. がん治療中の患者を支援するための地域包括ケアにおける望ましい医療連携	共	2021年3月	大阪大学看護学雑誌, 27(1), 1-8	医療・介護従事者が、がん治療中の患者を支援するための地域包括ケアにおける望ましい医療連携をどのように認識しているかを明らかにすることを目的とした。医療・介護従事者 88 名に半構成的面接調査を行い、質的帰納的に分析した。がん治療中の患者を支援するための地域包括ケアによる、副作用マネジメントに係る地域主体の医療連携を築くと共に、心理・社会的サポートを担う地域連携の必要性が示唆された。
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
2. 学会発表				
1. タキサン系抗がん剤による化学療法誘発性末梢神経障害に対する対処法のオントロジーを構築する試み	共	2023年2月25日	第37回日本がん看護学会学術集会	CIPNをもつ患者の個別的な対処法を一般性の高いものへと構造化することによって、他の患者も活用できる看護システムの開発を目指し、タキサン系抗がん剤によるCIPNに対する対処法について、オントロジーの構造化項目にそって分類することを目的とした。タキサン系薬剤によるCIPNを有する外来化学療法中の消化器がん患者4名を対象として、CIPNの対処法について半構成的面接法を行い、オントロジーの構造化項目にそって分類した。対象者のCIPNに対する対処法について一般目的ノードは「二次障害を予防する」「症状を和らげる」「しびれと付き合う」「症状の誘発・増悪を回避する」「生活を円滑にする」「気持ちをマネジメントする」に分類された。オントロジーの構造化項目によって6つの一般目的ノードは、他のがんサバイバーにも活用できる対処法として分類された。
2. 外来がん薬物療法を受ける患者における食欲不振の実態	共	2022年6月18日	第7回日本がんサポーターブクア学会学術集会	外来がん薬物療法中の患者における食欲不振の実態について明らかにすることを目的とした。がん患者を対象とした無記名自記式質問紙調査において、外来がん薬物療法中の食欲不振に回答した392名を対象とした。対象者は男性53.5%、大腸・直腸がん16.5%であった。食欲不振は悪液質の兆候でもあるため、早期発見すること、消化器症状だけでなく身体症状や精神状態を包括的にアセスメントし、多職種介入に繋げる必要性が示唆された。
3. A県における患者状況調査の自由記載からみた行政のがん対策に対するがん患者の	共	2022年2月19日	第36回日本がん看護学会学術集会	行政のがん対策に対するがん患者のニーズを明らかにすることを目的とした。がん患者を対象とした無記名自記式質問紙調査の自由記載より、ベレルソンの内容分析を用いて分析した。がん治療や生活を支えるための経済的支援の拡充や、治療による副作用の軽減や在

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
ニーズ				宅療養を見据えた、治療中から緩和ケアを提供できる体制整備の必要性が示された。
4. Coping with Oxaliplatin-Induced Peripheral Neuropathy in Gastrointestinal Cancer Patients: A Qualitative Study	共	2022年2月	International Conference on Cancer Nursing	患者がオキサリプラチンによる化学療法誘発性末梢神経障害（以下CIPN）にどのように対処しているのかを記述することを目的とした。オキサリプラチンによるCIPNを有する外来化学療法中の消化器がん患者19名を対象に半構成的面接調査を行い、内容分析を用いて分析した。患者が生活の中で物や人を活用して症状曝露回避を行うことができるように、有効な道具や資源、活用の仕方を情報提供することの重要性が示唆された。
5. Enlightening People about Community-Based Integrated Care in Cancer Treatment from the Perspective of Health and Nursing Care Providers: A Qualitative Study	共	2021年11月17日	The 5th Asian Oncology Nursing Society Conference	医療・介護従事者が、地域住民に対してどのような啓発が必要と考えているかを明らかにし、地域住民の理解促進に向けた示唆を得ることとした。医療・介護従事者 88 名に半構成的面接調査を行い、質的帰納的に分析した。地域住民に、地域包括ケアのもと医療・介護・生活が一体となったがん医療が受けられることを啓発するために、地域のがん診療や支援体制に関する情報発信や、早期からのがん教育、医療と行政が連携して地域の医療従事者が中心となった啓発の必要性が示された。
6. 医療・介護従事者が地域包括ケアにおいてがん診療連携拠点病院に期待する役割	共	2021年10月21日	第59回日本癌治療学会学術集会	地域包括ケアによるがん診療連携においてがん診療連携拠点病院に期待する役割を明らかにすることを目的とした。医療・介護従事者 88 名に半構成的面接調査を行い、質的内容分析を用いて分析した。拠点病院が医療・介護施設との連携を主導し、患者が住み慣れた地域にいながらも継続的に質の高いがん診療を受けることができるような連携体制づくりの必要性が示された。
7. 末梢神経障害をもつがんサバイバーの対処方法に関する知識モデルの作成	共	2021年10月21日	第59回日本癌治療学会学術集会	CIPNをもつがんサバイバーの個人的な知識である生活上の対処方法とその目的を明らかにし、行為分解木の枠組みに基づき知識モデルとして記述することを目的とした。文献検討および、ガイドライン、専門書等を参考として行為分解木の枠組みに基づき知識モデルを記述した。CIPNをもつがんサバイバーの個別的な知識を先行研究等を用いた演繹的な方法により抽出後、行為分解木を作成し知識モデルとして記述できた。
8. 術後早期の婦人科がんサバイバーが自分らしく生きるための支援ニーズ	共	2021年6月18日	第26回日本緩和医療学会学術大会	術後早期の婦人科がんサバイバーが自分らしく生きるために必要としている支援の実態を明らかにすることを目的とした。無記名自記式質問紙調査による量的記述的研究デザインを用いた。対象者は55名、子宮体がん65.5%であった。婦人科がんサバイバーは術後早期から、自分らしく生きるための支援を必要としていた。またその支援ニーズを満たすことが、術後早期の婦人科がんサバイバーのQOLにとって重要であり、人生に起きた変化やどう生きていきたいかといった点を捉えて支援することの重要性が示された。
9. Coping with Chemotherapy-Induced Peripheral Neuropathy in Cancer Patients: A Scoping Review	共	2021年4月15日	The 24th East Asia Forum of Nursing Scholars	本研究では、がん患者におけるCIPNへの対処について述べることを目的とした。Medline、CINAHL、医中誌Webを用いて、スコーピングレビューを行った。CIPN患者は症状緩和が困難であるため、他の目的を達成するための対処法を強化することの有用性が示された。
10. 医療・介護従事者が望ましいと捉える地域包括ケアにおけるがん診療連携	共	2021年2月27日	第35回日本がん看護学会学術集会	地域包括ケアにおいて望ましいと捉えるがん診療連携を明らかにすることを目的とした。医療・介護従事者 88 名に半構成的面接調査を行い、内容分析を用いて分析した。患者を中心として病院と地域施設の医療・介護従事者を繋ぐ機能の開発、治療の場が地域に移行した後もがん診療を担う病院が後方支援を行う体制整備を、地域全体で取り組むことの重要性が示された。
11. Achieving optimal cancer care coordination to support patients undergoing cancer treatment in community-based	共	2021年1月18日	第4回国際がん研究シンポジウム	地域包括ケアにおいてがん治療を受ける患者を支援するための最適ながん医療連携について、医療・介護従事者の視点から明らかにすることを目的とした。医療・介護従事者 88 名に半構成的面接調査を行い、内容分析を用いて分析した。治療中からの適切な緩和ケアや地域での緩和ケアの提供、がん診療連携拠点病院との連携強化が必要であることが示された。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
integrated care: A qualitative study 12. 婦人科がんサバイバーの手術療法1か月後の支援ニーズの実態	共	2020年8月9日	緩和・支持・心のケア合同学術大会2020	婦人科がんサバイバーの手術療法1か月後の支援ニーズの実態を明らかにすることを目的とした。無記名自記式質問紙調査による量的記述的研究デザインを用いた。対象者は48名、子宮体がん66.7%であった。手術後1か月であっても、身体領域の支援より再発や家族へのリスクといったがんそのものに関する情報取得の支援ニーズが高く、退院前から不安内容や術式をアセスメントし、必要な情報内容や情報の取得方法を考慮した支援が必要であることが示された。
13. Medical coordination for palliative care during cancer treatment by community-based health and nursing care providers in Japan: a qualitative study	共	2020年2月28日	The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science	地域の医療・介護従事者によるがん治療中からの緩和ケアのためのがん診療連携を明らかにすることを目的とした。医療・介護従事者88名に半構成的面接調査を行い、内容分析を用いて分析した。地域で緩和ケアを提供するために地域のシステム体制を構築し、拠点病院との連携強化の必要性が示唆された
3. 総説				
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
6. 研究費の取得状況				
学会及び社会における活動等				
年月日		事項		